

# 離島から、へき地医療の イメージを変えていく

北海道の離島・利尻町で地域医療に携わる淺井先生。地域住民の"生の声"に寄り添う医療を提供しながら、医師の働く環境・ストレスコーピングに対する自身の経験を生かし、へき地医療のイメージを変える仕組みづくりに奔走している。



元々、

以

#### 地 ここで暮ら 域 医 療 0 あ す 4) からこそ見 か た えたた

医療に携わる中でも感じているという。

とつ、 |保中央病院の副院長に就任 は医療に携わるのが、 一年以上のキャリアを積み、 兵庫県西宮市出身、 海道の中でも北端に位置する島 利尻島。 大阪府の岸和田市民病院に そこで2016年か 関西医科大学 淺井悌先生 利尻島 0)

ました」。このことは、現在離島で地域 を得て、利尻へとやって来た。 上北海道を訪れていたという淺井先生 ーキャンプでの医療支援などにも携 大阪では、 住むしかない』と学んで帰ってき た経験を持つ。 『なんとかする』なんてことはで 院長退職に伴う医師急募の情報 札幌市内での勤務先を探して 局 プライベートでは年に10回 一時休職してアフリカの難 『本当になんとかしたいな 長く救急医療を専門に 「現地の医療を短期 ドルが高いものじゃない」。 おいては、 らなきゃ』 緊急手術は、 空港から約45分で行ける札幌の病院へ。 淺井先生。 は必ずしも必要ではないと感じる」と、 る。

島でできない手術は、

利尻

5

わ

離島だからっ

て、

ドクター

ヘリで搬送でき 「全部ここでや

と思わなくていい

現代に

へき地医療はそんなにハー

場合は、 医療と、 現状把握が大切だ。たとえば利尻町 町民とのコミュニケーション、 のミスマッチを防ぐためにも、 要望を汲み取り、 う考え方が大切だと思っています」。 う とされる。 に 『できる範囲の中でなんとかする』とい じ。 へき 仕事自体は、どこでもやることは同 行 もちろん規模や設備の関係で、 てもできないことはありますが、 政や町民などからのさまざまな 地医療は、 「すべて島内で完結させること 本当に必要とされている医療 医師自身がやりたいと思う 寄り添う姿勢が必要 医者の思いだけでな 正しい 行政や ۳

> 必要なのだ。 ことに柔軟に寄り添い、 任せる。その分、 「できないこと」はできる方法を考え ここで求められている 力を注ぐことが

#### 矢 矢 師 療 が 0 働 質 きやす (を保ちながら l, 環境を整える

動で実感したことだという。 要だと考えている。 呼び出しがあって、 す」。これも、 余暇も大切にしてほしいと思って 取れるようにするなど。 を推進したり、 具体的には、 …みたいなイメージを持っている人が 境づくり。「離島に勤務すると、 組んでいることの一つが、 かにストレスをマネジメントするかが 大きな負荷がかかることも多いため、 いるのですが、 淺井先生が着任してから、 スタッフの有給休暇の取得 アフリカでの医療支援活 1~2週間の長期休暇を それを変えていきたい」 島に閉じ込められる 仕事と同じように 仕事柄、 働きやす 熱心に取 24 時 環



いわゆる「総合内科」として、さまざまな健康問題につ いて相談に乗り、適切な処置へと導くのが仕事。眼科・ 産婦人科・整形外科は月に数回非常勤医師が対応する。



病院が位置する沓形地区は、山の方へ向かって傾斜が付 いた土地。少し小高い場所にある病院の窓からは、山側 に利尻富士、海側には大海原と遠くに霞む島々が望める。



10年以上、救急医療に携わってきた淺井先生。「ちょう ど受験の頃、阪神淡路大震災があって。それが、災害医 療を志す一つのきっかけになりました」と語る。



#### PROFILE

淺井 悌 先生

関西医科大学附属病院 救命センタ 2001年 2005年 市立岸和田市民病院 救急診療科 2016年 市立岸和田市民病院 集中治療科 2017年 利尻島国保中央病院 副院長 2021年 利尻島国保中央病院 院長

か 頼 る事象が起きない 11 ら派遣してもらっているそうだ。 ようにしている。 の医師を依頼し、 もちろん、スタッフが休む際には代 きる には札幌市の札幌東徳洲会病院 飛行機で気軽に往来できると ″個人的なツテ~ よう、 町民に迷惑が 医療に穴が空 代診は極力信 を頼って依 かな か か

頑

なんて言われることもありますよ」 『利尻に遊びに来たんでしょ?』 冬にはバックカントリー 「見た目が遊び人だ · を楽 ح な 方 なら 7 が 5 ( くため 知 は 識 0 や 技 1)

が

61

を

笑うが、

院長自身が率先して方針を実

か

フィン、

淺井先生自身、

休日には登山やサ

ĺ

いう立地が大きな武器となっている。

むアウトドア派。

践することは、

病院全体の雰囲気を変

える意味でも非常に重要だ。

とう たと感じます」。 ミュニケーションを取りながら、 淺井先生。 しいです。ここでやってきて良 き医療」 やりが が日頃から聞ける環境なの いはね、 に取り組む日々。 行政や町民と近い距離でコ 毎日ありますよ」と 『ありが 「為す いがう か

す。 らないようにしているのだとい しながら、 救急センター りを通して、 ログラムで受け入れる専攻医との されてくる都心部の医師や、 いわけではないが、 いけない。 張らないと、 離島だからといって情報が入らな 方で、「浦島太郎化しないように 技術の進化が目まぐるしい医療業 最新の医療情報に後れ また、 淺井先生は、 へ当直に行く機会を活用 という恐怖心もあ 学ぶ姿勢は崩して 自身が毎月札 短期で派遣 専門 を取 幌の 関わ |医プ ŋ

は

あると る人なら、 楽しめる術をいっぱい知っ スは絶対にありますよね。 「どこでどんな風に働いても、 たと か えば自然を生 きっと活躍できると思い 北海道での暮らしを楽しめ かした趣 だからこそ ている人は スト 味 が

#### 利尻島国民健康保険病院組合 利尻町国保中央病院

住所 〒097-0401 利尻郡利尻町沓形字緑町11番地 TEL 0163-84-2626 FAX 0163-84-2640

【診療科目】 内科·外科(常勤3名) 眼科(非常勤) 産婦人科(非常勤) 整形外科(非常勤)





## 離島医師の写真館

photo gallery



Nature



■登山

夏は研修医からリクエストが あれば、ガイド役として一緒 に登ります。冬はバックカン トリー天国、山頂からの滑降 は格別!

Outdoor



#### ■釣り

ホッケ、ソイ、ブリ、マグロ、アキアジなど、釣りも天国。近年マグロが跳ねていて心踊ります。



### ■家庭菜園

コロナで旅行もできないので、庭 で家庭菜園はじめました。泥だら けになった後は、テントサウナで ととのいます。



#### ■サーフィン

利尻は、実はサーフィンの秘境です。波が立 <u>つ日こそ少ないが</u>、波があれば貸し切りです。

